

組合NEWS

Faculty and Staff Union of Kanazawa University
金沢大学教職員組合執行委員会
金沢市角間町
Tel.076-262-6009 (FAX同じ) / 角間内線2105
E-mail kanazawa@ku-union.org
ホームページ http://www.ku-union.org/

2019年9月25日

通巻1269号

この号の内容

- 2019年度 役員紹介
- 所信表明

2019年度 執行委員を紹介します

執行委員長	市原 あかね	角間北支部 (経済学経営学系)	教員系
副執行委員長	岡本 博之	医学系四分会 (保健学系)	教員系
書記長	森 祥寛	工学系分会 (総合メディア基盤センター)	教員系
書記次長	島村 潤一郎	附属学校園支部 (高等学校)	教員系
会計委員	古館 英樹	理学系分会 (物質化学系)	教員系
執行委員	吉田 国光	角間北支部 (学校教育系)	教員系

よろしくお願ひします！

所信
表明

執行委員長
市原 あかね (経済学経営学系)



現場を大切にす大学ガバナンスに立ち返らせよう！

組合の役職からはご無沙汰していましたが、よろしくお願ひします。人間社会研究域経済学経営学系に属し、地域創造学類(専任)と経済学類(準専任)の担当教員をしています。専門はエコロジー経済学で、環境と社会の相互関係の理解の仕方や「持続可能な社会」(無限の経済成長のような夢想ではなく現実的に意味のあるものです)に向けた社会転換の考え方について研究しています。個人的には、家庭菜園における「アグロエコロジー」を今後極めたいと思っていますところ。アグロエコロジーの考

え方は、日本においてもパーマカルチャーやトランジション・タウンとして実践されています。農法としては自然農法に近いと思いますが、「無農薬無肥料」と無理をするのではなく、生物的過程を上手に組み込んだ比較的小規模な農業実践を指します。生物多様性を生かして、虫の害も出るけどホドホドであれば気にせず、むしろ人間の労働を生物過程に肩代わりしてもらえよう知恵を働かせるものです。また、土壌への炭素貯蔵を進めるので地球温暖化対策の一つにもなります。関心のある方、ご一緒

しませんか？

さて、今回、委員長に立候補したのは、そろそろ定年なのでやっておくべきことをやっておこうと思ったからです。皆さんもご存知かと思いますが、ここ5年ほどの間に定年を迎えた経済学系の教員の中には、定年前に組合でひと花咲かすぞとおっしゃりながら病に倒れた方が複数おられました。「それらの方々の約束を代わりに果たそう」と言う重～い決意ではなく、「そう言えば実現できていなかったっけ、それではこの辺りでやっつくかな」という気持ちで、決めました。

私には、今の金沢大学について気になることがいくつもあります。まず、事務・教員、双方に広がる多忙化、職種・待遇の多様化です。本組合は、非常勤職員の5年雇止め問題では希望者の無期転換を実現させるなど、一定の成果を上げることができました。しかし、今や多くの非常勤職員に大学が支えられている現状です。非常勤職員が働きやすい職場を実現する努力を一層継続して行く必要があります。また、新規採用者から適応することになった年俸制は、これまでの「なんちゃって年俸制」ではなく本格的なものになろうとしています。そもそも年俸制を取ると研究・教育・社会貢献のモチベーションが上がるというのはunaccountableだし、鼻先に給料を下げられれば頑張ると仮定してもみんなが高いモチベーションを出して猛烈に頑張った時に全員に十分な報奨金的給与を支払うだけの財源があるのかもunaccountable。この怪しげな制度が不利益変更をもたらさないよう、そして新規採用者だけが割りを食うことにならないよう、注文をつけていく必要があると思っています。

また、大学のガバナンスについて、危機的な状況と感じているのは私だけではないと思います。英語化に端的に見られるように、教育の実態や効果を各教育単位が責任を持って検討する権限が与えられずに無理

やり押し付けられ、大学入試における英語の外部試験導入のように、受験者にとっての公平性に疑問が出され、かつ評点を見た時に比較可能性に疑義が出されているのに、そうした声は一向に反映されない。この状態は、金沢大学の教員にも組織にも深い傷を負わせているのではないのでしょうか。

私たち教員は、大学運営において、常に学生に対する責任を強く意識し、教育と研究を推進するべく責任を持って取り組んできました。教育改革を例にすれば、学類等の教育単位にもとづいて課題や改革の展望を共有し、改革のあり方を丁寧に議論し、改革が決まれば、担当学務係とともに力を合わせて実施してきました。それは、各教育単位がボトムアップ型の組織運営を認められ、権限を与えられていたからですし、そのことが組織メンバーの相互信頼を育んできました。

しかし、教育の基礎的単位に自分たちで検討し決定する裁量権がなくなり、教育実態を踏まえて意見をあげても全く顧みられず、真面目に考えても虚しいとなれば、大学教育の見直しや改革に知恵を絞ろうというモチベーションは失われます。上から言われたことにどう合わせるか、に終始していきます。何しろ多忙ですから、無駄に時間とエネルギーを割くわけにはいきません。こうして、無理なガバナンスが、金沢大学の教員のモチベーションと教員間のソーシャルキャピタルを大きく毀損してきている。そう感じているのは私だけではないでしょう。

こうした気になっていることに対し、組合員の皆さんと意見交換しながら、不利益変更を阻止し待遇改善を求め、大学のガバナンスが創造的組織にふさわしいものとなるよう、微力ながら働きかけていきたいと思っています。



所信
表明

書記長

森 祥寛

(総合メディア基盤センター)



これからの一年間の活動に向けて

今年度、書記長の役職をいただきました総合メディア基盤センターの森祥寛です。

本稿では、自己紹介や所信などを書くようなのですが、具体的に何を書けば良いでしょうか？ 昨年度の資料を見てみると・・・皆さん真面目よね～という感じで、非常に面白く、かつ分かりやすく書かれています。それを踏まえて、今度は自分自身の立ち位置から書かならばと・・・頭をひねっています。本当に、何を書けば良いのでしょうか？

とりあえず、まずは、私の組合に対する見方を書いてみます。私は、本組合のような「組合活動」というものは大変重要であり、さまざまな労務の実施が求められる組織においては、必要不可欠のものと考えています。ですが、できれば、私自身とは直接の・・・などとも思っていました。本学教職員の大半の方は、同じように思い、考えているのではないのでしょうか。

最近「組合」というもの自体に否定的という方もいらっしゃるようですが、それは「組合活動」というものがイデオロギーとセットになっている「イメージ」から来ているように思います。本来、組合活動とは、イデオロギーは関係なく、そこに働く労働者の権利が正しく守られていくことを見守り、必要に応じて、上手に、率先して行使していくものです。

確かに、労働者の権利？ 何それ美味しいの？ といった時代から、権利を得ていく過程で、さまざまなことが必要だったことは分かっています。ですが、時代は移り変わり、法律が整備され、行政による運用がなされている現在では、イデオロギーや政治的な立ち位置のような視点では無く、大部分を占めるだろうそういったこととは

無縁の労働者とともに歩むことが重要でしょう。何とも偉そうな書き方になってしまいましたが…。そして、金沢大学の教職員組合は、この辺りについて、私の知る限りですが、無色透明、偏りのない組織であり、活動であるように思います。

次に、組合として何をすべきかについて、私の思うところをつらつらと書いてみましょうか。

一番必要なのは、組合員を増やすということです。労働法制上、企業などの組織で、労働者を使って活動している場合は、労働者の中から代表をだし、その代表が経営者と労働条件などについて話し合い、話し合った内容を文章にまとめた上で、労働基準監督署に提出する必要があります。労働組合が、この労働者代表となるためには、労働者の過半数以上が、当該組合に所属しないとけません。

現在の金沢大学の教職員組合は、所属している労働者数が過半数に達していないため、過半数組合となっておらず、労働者代表を出すことができません。何とか、組合員を増やして、過半数組合となり、労働者代表を～というのが常に話題にあがっています。もっと現実的なことをいうなら、組合員を増やして、組合費を集めないと、まともな組合活動すらままならないという現実もあります。この辺り、学会運営などで苦勞されている先生方なら、身にしみてお分かりいただけるのではないのでしょうか。

ちなみに、過半数組合が存在しない場合は、労働者を管理する部署が中心となって、労働者組織全体に呼びかけ、部署毎に代表者（代議員）を出してもらい、その合議によって過半数代表を選出するという形で、

労働者代表とします。現在の金沢大学では、この方式を採っており、年末から年度末にかけて、皆さんの元に代議員選出についての案内が来るわけです。

二番目としては、…というところで、随分、書いてしまいましたので、別の機会にでも書かせてください。「何を書けば良いのでしょうか？」と書いておきながら、結構な分量を書いてしまいました。実は、この原稿を書いているのは8月30日（金）の夕方です。わざわざ日付を出した理由は簡単で、この日の13時から学長選考における候補者の所信等説明会があり、私もそれに参加して、説明を聞いてきました。その内容は、本稿が出されているときには、本学Webページ上に公開され、皆さんも確認できていることと思いますので、具体的には書き

ませんが、まあ、いろいろ思うところも出てきてしまう。そんな感じで、二番目以降にはこれらを、と思ったのですが…。

最後に国立大学法人化がされてから15年が経ちました。その間に皆さんの担当する業務・作業内容や、それにあたる労働者としての働き方、給与などが変化してきました。これからの10年は、社会情勢や構造の変化、法整備、技術の進歩に伴う新しい問題の発生などによって、もっといろいろなことが変化していくことでしょう。その変化を上手に使われて、茹でガエル現象のようなことが起こらないように、皆さん自身も情報収集をして、是非、組合などとも共有してください。

何にせよ、一年間、頑張らせていただきますので、どうぞよろしくお願ひします。



書記次長
島村 潤一郎 (高等学校)



よろしくお願ひします

今年度、書記次長として選出されました島村と申します。所属は附属高校、担当教科は国語、今年で54歳になります。平成とともに教員生活を始めました。私が教員になった頃はまだ昭和の名残があり、当然加入するものと思い、何の迷いもなく組合に入りましたが、聞くところによると、平成年間で若い世代を中心に組合離れが進んだとのこと。けれども今自分たちが享受している制度的な恩恵は先人たちが一つ一つ勝ち取ったも

のであり、そのことを忘れるわけにはいかないと思います。また、言うべきことを言おうとしない長いものには巻かれるような空気の職場環境においては、労働状況の是正は行われず、逆に知らず知らずのうちに専横がはびこっていく危険性もあると思います。

今後、皆様方のご協力をお願いすることもあるかもしれませんが、何卒その際はよろしくお願ひいたします。



職場を良くしたいという「想い」や「声」がたくさん集まると、職場を改善する大きな力になります。組合に加入されていない方は、ぜひ、加入してください。

労働問題に関する情報、大学をめぐる動き、
金沢大学教職員組合の活動などを配信しています。

